



ソフトバンクグループ株式会社

第 43 回定時株主総会

2023 年 6 月 21 日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

また、本資料は、Arm Limited が発行する証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘を構成するものではありません。あらゆる証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘は、1933 年米国証券法（改正法も含む）およびその他の適用証券取引関連法令に従い登録制に基づき行われます。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor) をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」）、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」）及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」）を含みます。

SB ファンド（ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。

イベント概要

[日程]	2023年6月21日
[時間]	午前10時～11時50分（開催時間：1時間50分）
[開催場所]	東京国際フォーラム ホールA（東京都千代田区丸の内3-5-1）
[登壇者]	13名
	代表取締役 会長兼社長執行役員 孫 正義 （以下、孫）
	取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO 後藤 芳光
	取締役 宮内 謙
	取締役 川邊 健太郎 （以下、川邊）
	社外取締役 独立役員 飯島 彰己
	社外取締役 独立役員 松尾 豊 （以下、松尾）
	社外取締役 独立役員 襟川 恵子
	社外取締役 ケン・シーゲル
	社外取締役 独立役員 デビッド・チャオ
	常勤社外監査役 独立役員 遠山 篤
	常勤社外監査役 独立役員 中田 裕二
	社外監査役 宇野 総一郎
	社外監査役 独立役員 大塚 啓一
[報告事項]	・2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件 ・2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）計算書類報告の件
[決議事項]	第1号議案 剰余金の処分の件 第2号議案 取締役9名選任の件 第3号議案 監査役1名選任の件 第4号議案 子会社持分譲渡（現物出資）契約承認の件

登壇

孫：おはようございます。代表取締役 会長兼社長執行役員の孫 正義です。株主の皆さまには大変ご多忙のところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。

株主の皆さまへ



平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社の第43回定時株主総会招集ご通知をお届けいたします。

2022年度は、地政学リスクの高まりや金融システム不安の発生など想定外の混乱が続き、不安定な市場動向に見舞われました。こうした中、当社は金融市場のいかなる動向にも対応できるよう、保有資産の継続的な資金化と投資の縮小による「守り」の姿勢を徹底し、盤石な財務基盤を構築しました。

業績については、連結純損失^(注1)が9,701億円となりました。世界的な株価下落傾向を背景にソフトバンク・ビジョン・ファンド事業において5兆3,223億円の投資損失（うち、1兆1,279億円は外部投資家に帰属する損失）を計上した一方、保有するアリババ株式の資金化に伴い4兆3,403億円の投資益を計上しました。また、アーム事業は、半導体

市場全体がマイナス成長に転じた中でも売上高（米ドルベース）が過去最高を記録するなど、堅調に進展しました。なお、アームは、新規株式公開に向けた準備を進めています^(注2)。

2023年度は、地政学リスクなどに起因するダウンサイドは引き続き予断を許さないものの、足元では革新的な情報技術が急激に進化しています。財務の安全性を維持しつつ、情報革命を牽引する投資は実行し、「守り」と「攻め」を両立させていきます。

ソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、NAV^(注3)のさらなる向上に取り組んでまいります。株主の皆さまにおかれましては、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年5月29日

(注) 1. 親会社の所有者に帰属する純損失
2. アームは、米国証券取引委員会に対して、同社の普通株式を対象とした米国預託株式（ADS）の新規公開計画に関するForm F-1の登録届出書ドラフトを非公開で提出したことを2023年4月に公表しました。
3. Net Asset Value、保有株式価値－調整後純有利子負債で算出。

定款第13条の定めにより、私が議長を務めさせていただきます。

第43回定時株主総会を開会いたします。本総会は、インターネットを通じて、議決権行使や質問などが可能なインターネット出席の方法を採用しています。本会議の目的事項は、当社ウェブサイトに掲載の招集通知の通りです。併せて、議案の審議に必要な定足数を満たしていることを報告します。

それでは、今後の進行方法について、司会から説明します。

司会：報告事項の報告、決議事項の内容説明および事業戦略説明の後に、報告事項および決議事項について質疑応答に移り、質疑応答終了後は、決議事項につき、採決のみを行わせていただきたいと思います。

議決権行使に関して、ご来場株主さまは拍手にて、インターネット出席株主さまはインターネットからの入力にて、それぞれ確認させていただきます。また、インターネット出席株主さまの議決権行使はすでに可能ですが、一度行使された場合、行使内容の修正はできませんのでご注意ください。

質疑応答に関しましては、決議事項の内容説明および事業戦略説明の後、まず、インターネットから事前にいただいたご質問に回答いたします。その後、ご来場株主さまから一括してご発言をお受けいたします。より多くの株主さまからご質問いただくべく、ご質問はお一人さま1問とさせていただきます。

なお、ご来場株主さまからのご発言についてはすべてこの機会にお受けし、インターネット出席株主さまからの質疑応答を開始した時点で締め切らせていただきます。その後、インターネット出席株主さまから本日入力いただいたご発言に回答いたします。インターネットからのご発言の受付はすでに開始していますが、締切は質疑応答開始から5分後までとさせていただきます。インターネット出席株主さままでご質問、動議を希望される方は200文字以内で入力、送信をお願いします。

なお、インターネット出席株主さまからのご質問はお一人さま1問、動議につきましても、同一の種類の動議に関しましては1回のみ取り上げさせていただきます。また、手続に関する動議について、インターネット出席株主さまからの動議の場合、その採決はご来場株主さまからのご発言への回答の後にまとめて行わせていただきます。

議案に対する修正動議がありました場合、会社提案の原案と一括で審議し、採決の際には原案から先に採決させていただきます。以上、進行方法についてご説明いたしました。

孫：それでは、この進行方法で進めてよいかどうか、採決をしたいと思います。ご賛成のインターネット出席の方は拍手ボタンを、会場の方は拍手をお願いいたします。

[拍手]

ありがとうございます。それでは、採決の結果を確認いたしますので、しばらくお待ちください。

賛成が過半数に達しましたので、この方法で行わせていただきます。

報告事項は、ご覧のとおりです。

報告事項

報告事項の内容は、当社ウェブサイトに掲載しております以下のとおりです。

- **招集通知** 24ページから65ページまで
- **交付書面省略事項** 3ページから7ページまで

また、事業概要のビデオを用意していますのでご覧ください。

映像：情報革命で人々を幸せに。2022年度のソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）は、創業以来変わらぬ経営理念のもと、情報革命をけん引すべく投資先とともにさまざまな活動に取り組みました。また、いかなる市場動向にも対応できるよう、「守り」の姿勢を徹底し、盤石な財務基盤を構築しました。

2022年度の売上高は、前年度比5.6%増の6兆5,704億円となりました。ソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）事業において損失を計上しましたが、持株会社投資事業ではアリババ株式先渡売買契約の現物決済に関連した利益を計上したことにより、連結の投資損失は8,351億円と、前年度比で改善しました。純損失は9,701億円となりました。

中間配当の22円と合わせた2022年度の年間配当は、1株当たり44円を予定しており、2023年度の配当は2022年度と同額を予定しております。

AIを活用した成長可能性の大きな企業へ投資するSVF事業では、厳しい市場環境において大幅に投資を縮小する一方、規律あるアプローチのもとで資金化を実施するなど、「守りの姿勢」を継続。

2022年度は多数の公開投資先の株価下落および未公開投資先の公正価値減少などの影響により、合計5.3兆円の投資損失を計上しました。

SVF1 および 2 で合計 64.7 億米ドルの売却を実施しました。なお、ファンド活動開始以来の累計投資成果は、SVF1 が投資額 896 億米ドルに対し 1,010 億米ドル、SVF2 が投資額 502 億米ドルに対し 319 億米ドルとなりました。

引き続き厳しい環境下ではありますが、新規投資の厳選、既存投資先の価値向上に向けた取り組みを続けてまいります。

SBG は、戦略的投資持株会社として、直接または子会社を通じた投資活動を実施。アリババ株式を利用した先渡売買契約のうち、一部を対象とした早期現物決済の実行などにより、4 兆 5,606 億円の投資利益を計上、セグメント利益は 3 兆 3,498 億円を計上しました。

日本国内で主に通信事業を営むソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）は、引き続き成長戦略である「Beyond Carrier」を推進。従来の通信キャリアの枠組みを越え、情報・テクノロジー領域のさまざまな分野で積極的に事業を拡大することで、企業価値の最大化を目指しています。

ソフトバンク事業の 2022 年度のセグメント利益は、企業のデジタル化の進展に伴い法人事業が増益となった一方、主にモバイルサービスの通信料値下げの影響でコンシューマ事業が減益となったことにより、前年度比 30.2%減少の 5,928 億円となりました。

また、日本でキャッシュレス決済サービスを手掛ける PayPay 株式会社は、2023 年 4 月に登録者数が 5,700 万人を突破。連結決済取扱高も 10 兆円を突破し、順調に拡大を続けています。

Z ホールディングス株式会社（以下「Z ホールディングス」）は、経営の意思決定と統合シナジー創出の迅速化に向け、同社と中核子会社である LINE、ヤフーの 3 社を中心としたグループ内再編を 2023 年 10 月 1 日に完了する予定です。

SBKK は、「デジタル化社会の発展に不可欠な次世代社会インフラを提供する企業」を目指していきます。

半導体の IP のライセンス事業を営むアームは、事業が堅調に進展し、ロイヤルティー収入が好調に成長。アームベースのチップを採用したネットワーク機器や、ハイエンド 5G スマートフォンの好調な出荷に加えて、自動車や IoT、サーバーなど、多様な市場でシェアを拡大しました。

その結果、2022 年度の売上高は、過去最高の 28 億 1,700 万米ドルを計上しました。調整後 EBITDA は、14 億 8,400 万米ドルを計上しました。

現在アームは新規株式公開に向け、準備を進めており、米国 SEC に F-1 の登録届出書ドラフトを 4 月に非公開で提出しました。今後も長期的な視野に立ち、新しい技術分野への投資を行い、さらなる飛躍を目指していきます。

財務戦略においては、引き続き財務方針の堅持とあらゆる変化に対応できる柔軟かつ機動的な財務運営を二つの大きな柱として掲げました。

財務方針としては、通常時の LTV を 25%未満、異常時でも上限 35%で運用。市場環境を考慮しながら中長期的な視野に立った起債を行い、少なくとも 2 年分の社債償還資金を保持。加えて、SVF や子会社からの継続的な配当などの収入を得ることで、財務の安定性を維持するよう努めています。

2022 年度は、市場環境の大きな変化を受け、いち早く守りを徹底する姿勢に転換しました。積極的に資金化を行う一方で、負債を削減するとともに投資を大幅に抑制しました。併せて、資本配分のバランスを考慮しながら自己株式の取得を通じた株主還元も行いました。

その結果、2023 年 3 月末の LTV は 11%と極めて安全な水準であり、手元流動性も 5.1 兆円と、今後 2 年分の社債償還資金 1.5 兆円を大幅に上回る水準となりました。

2023 年度も引き続き財務方針を堅持しつつ、外部環境を見極めながら、守りと攻めの両面に対応できるよう柔軟かつ機動的な財務運営を行っていきます。

社会の持続的な発展とソフトバンクグループの中長期的な成長のため、環境、社会、ガバナンスに関するさまざまな取り組みを実施しています。

気候変動対応では、2030 年度までにカーボンニュートラルを達成するというグループ目標を設定し、グループ全体で、温室効果ガスの排出削減を進めています。すでに、SBG は 2020 年度からカーボンニュートラルを達成しており、主要グループ各社も意欲的な温室効果ガス削減目標を設定し、達成に向けて取り組んでいます。

また、ウクライナでの人道危機に対する支援として、SBG と SBKK は、日本へ避難されてきた方に、スマートフォンを貸し出し、通話やデータ通信サービスを無償で提供しています。

今後も、持続可能な社会の実現に向けて、情報革命をリードする企業としての責任を果たしていきます。

SBG は、AI 時代の本格到来を受け、新しいビジネスモデルやテクノロジーの発展を加速させ、株式価値の最大化を目指し、これからもまい進してまいります。

情報革命で人々を幸せに。

孫：以上、ビデオにより説明させていただきました。見ていて、2 兆、3 兆と上がったたり下がったり激しいなと感じましたが、世界のさまざまな株式市場の状況だとか、難しい問題もあります。

ただ、言えることは、AIの革命がいよいよ本格的に爆発的に大きくなりそうだと、その予感をひしひしと感じており、グループ内部でそのための準備が今着々となされているところです。私も、実はめちゃくちゃ忙しくやっています。水面下で今その準備をいろいろな意味で整えつつあります。

ここで、本日の決議事項を上程し、内容を説明します。

各議案の詳細は当社ウェブサイトに掲載の招集通知の通りです。

第1号議案は、剰余金の処分の件です。

株主総会参考書類

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、財務体質の健全性を保ちつつ、持続的成長に向けた積極的な投資と株主の皆さまへの利益還元を両立させることを基本方針としています。このような方針のもと、剰余金の配当につきましては、中間配当と期末配当の2回実施を原則として、当期の期末配当金を、次のとおりとしたいと存じます。

なお、中間配当（1株当たり22円）と合わせた年間配当は、1株当たり44円となります。

1 配当財産の種類
金銭

2 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額
当社普通株式1株につき22円
総額 32,187,047,882円

3 剰余金の配当が効力を生じる日
2023年6月22日

第2号議案は、取締役9名選任の件です。

株主総会参考書類

第2号議案 取締役9名選任の件

現任取締役9名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役9名の選任をお願いするものです。

取締役候補者は次のとおりです。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位
1	再任 孫 正義	代表取締役 会長兼社長執行役員
2	再任 後藤 芳光	取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO
3	再任 宮内 謙	取締役
4	新任 レネ・ハース	—
5	再任 飯島 彰己	社外取締役 独立役員
6	再任 松尾 豊	社外取締役 独立役員
7	再任 襟川 恵子	社外取締役 独立役員
8	再任 ケン・シーゲル	社外取締役
9	再任 デビッド・チャオ	社外取締役 独立役員

第3号議案は、監査役1名選任の件です。


株主総会参考書類

第3号議案 監査役1名選任の件

現任監査役4名のうち、遠山 篤氏は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役1名の選任をお願いするものです。

なお、本議案の提出につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりです。

	とよやま あつし 遠山 篤 (1955年4月28日生 満68歳)	社外 独立 再任
	略歴、地位および重要な兼職の状況 1977年 9月 プライスウォーターハウス（現プライスウォーターハウスクーパース） サンフランシスコ事務所入所 1981年 8月 米国カリフォルニア州公認会計士登録 2006年 6月 あらた監査法人（現PwCあらた有限責任監査法人）パートナー 2015年 6月 当社常勤監査役（現任）	

所有する当社株式の数
— 株

社外監査役候補者とする理由
遠山 篤氏は、米国カリフォルニア州公認会計士として豊富な知識と経験を有しており、その知識と経験に基づく専門的な見地から監査いただくとともに、より独立した立場からの監査を確保するため、社外監査役候補者として選任をお願いするものです。同氏は社外役員としての職歴以外で会社経営に関与したことはありませんが、同氏の高い専門性により、当社の監査を適切に遂行できるものと考えています。
また、同氏は現在当社の社外監査役（独立役員）であり、その就任期間は本総会終結の時をもって8年間です。

- (注) 1. 監査役候補者と当社の間には、特別の利害関係はありません。
2. 当社は職務の遂行にあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするとともに、有用な人材を迎えることができるよう、現行定款において、監査役との間で、当社への損害賠償責任を一定の範囲に限定する契約を締結できる旨を定めており、遠山 篤氏との間で当該責任限定契約を締結しています。本議案において、遠山 篤氏の選任が承認された場合には、引き続き、同氏との間で同様の内容の契約を締結する予定です。
3. 当社は、監査役全員を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を締結しており、本議案が原案どおり承認され、候補者が監査役に就任した場合には、候補者は当該保険契約の被保険者となります。当該保険契約では、被保険者である監査役がその職務の執行に関し責任を負うこと、または、当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について増補することとされています。ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は増補されないなど、一定の免責事由があります。保険料は特約部分も含め当社が全額負担しており、被保険者の実質的な保険料負担はありません。なお、候補者の任期途中である2023年12月1日に当該保険契約を更新する予定であり、その後も同様に更新する予定です。

第4号議案は、子会社持分譲渡（現物出資）契約承認の件です。

株主総会参考書類

第4号議案 子会社持分譲渡（現物出資）契約承認の件

1. 譲渡を行う理由

当社は2022年11月11日の第2四半期決算説明会にて、当面の運営方針として「組織の効率化」を目的とした「海外プラットフォームの一体化」を発表しました。本方針に従い、海外投資ポートフォリオの移管を進めておりますが、本移管の一環として当社保有のSoftBank Vision Fund II-2 L.P.の全持分を当社完全子会社であるソフトバンクグループオーバーシーズ合同会社へ現物出資の方式で譲渡すること（以下「本譲渡」）について、会社法第467条第1項第2号の2の規定に基づき、本譲渡に係る契約のご承認をお願いするものです。なお、本移管においては、SoftBank Vision Fund II-2 L.P.の代替投資ビークルの全持分、SBLA Latin America Fund LLCへの出資に関連する全持分およびSoftBank Group Capital Limitedの海外投資ポートフォリオの価値に連動する種類株式の全部も同社に譲渡する予定です。

2. 本譲渡に係る契約の概要

譲渡会社（現物出資元会社）	ソフトバンクグループ㈱
譲受会社（現物出資先会社）	ソフトバンクグループオーバーシーズ合同会社
本譲渡の目的財産	SoftBank Vision Fund II-2 L.P. 全Equity持分（出資比率：100%）
現物出資の価額	効力発生日の当社における目的財産の簿価 （なお、2023年3月末時点では帳簿価額 5,484,639,395,404円）
本譲渡の期日（効力発生日）	2023年7月1日（ただし、本譲渡の手続きの進行上の必要性その他の事由により、必要があると認めるときは、当社およびソフトバンクグループオーバーシーズ合同会社の合意により、本譲渡の期日を変更することができる。）
本譲渡により当社が受け取る対価	上記現物出資の価額に相当する出資持分

3. 本譲渡により当社が受け取る対価の相当性に関する事項の概要

本譲渡により、当社には対価として、上記2の現物出資の価額に相当するソフトバンクグループオーバーシーズ合同会社の出資持分（効力発生日時点の当社における目的財産の簿価に相当）が割り当てられる見込みです。なお、ソフトバンクグループオーバーシーズ合同会社は、当社の100%子会社であり、本譲渡（現物出資）後も引き続き当社の100%子会社となりますので、本譲渡により当社が受け取る対価は相当であると判断しております。

ただ今から、今後の事業戦略について、私自身がプレゼンします。

反転攻勢へ

先ほど、ビデオの後にコメントしましたが、いよいよ反転攻勢の時期が近づいていると感じています。

私事ではありますが、去年の10月ぐらいからすごく考えることがありました。私自身の経営者としての、事業家としての人生はあと何年あるのだろうか、どんな人生だったのだろうか、なんだかとても虚しく感じてしまうことがありました。

この程度で終わっていいのだろうかと思って、実は大泣きしました。何日間か涙が止まらなくなりまして、何か違うと、これでは虚しいと感じまして、残りの事業家としての年数はもう義務感にとられた、やらなければいけないからやるという経営者、事業家としての人生ではいけないと思いました。

何を一番、自分はしたかったのか、したいのかと自分に問うた結果、本当は自分はアーキテクトになりたかったのだと思いました。アーキテクトは、デザイン、設計する人のことですが、何をアーキテクトするかというと、人類の未来はどうなるのだろうか、どうあるべきかなど、人類の未来をアーキテクトする役割です。

できないかもしれない、ちっぽけかもしれない、僕自身の力が足りないかもしれないが、もし自分が人類の未来のアーキテクトとしての役割をいささかでも果たすことができれば、その絵を描いている途中で死んだとしても、それが一番わくわくどきどきすることだ、それが一番やりたかったことだと感じました。その日から、どんどんとコンピュータの世界、AIの世界の先を思い描くようになりました。

19歳のとき、右脳が非常に活発に活動して、1日一つぐらい何か発明していた時期があったのですが、1年間で250ほど発明しました。そのときは自分の右脳、創造性が非常に活発に動いていると感じたのですが、その後会社を始めてから、経営者としての責任を果たすために、左脳の働きを中心に45年間過ごしてまいりました。

ですが、いよいよ去年の10月から、もう一度クリエイティビティのところの右脳の働きを再活動すると決めてから、この8カ月ぐらいで630件の発明をしました。この勢いで残り4カ月ぐらい続けると、1年間で1,000件弱ぐらいの発明をすることになるのではないかと。

大半は駄作だと思います。でも、中には自分でもびっくりするぐらいの、これは間違いなく人類の未来に大きな影響与えるものも思いつきました。特許事務所一つでは足りなくなり、私個人のために五つの特許事務所が並行して活動しており、せっせと出願作業を進めています。

もちろん、最終的に出願公開手続きまで持っていくのか。出願公開すると世間に公開され、競争相手やほかにも内容が漏れてしまいますので、いくつかは正式に出願し、いくつかは公開、特許化せずに、発明として製品をつくりに行く意思決定があります。

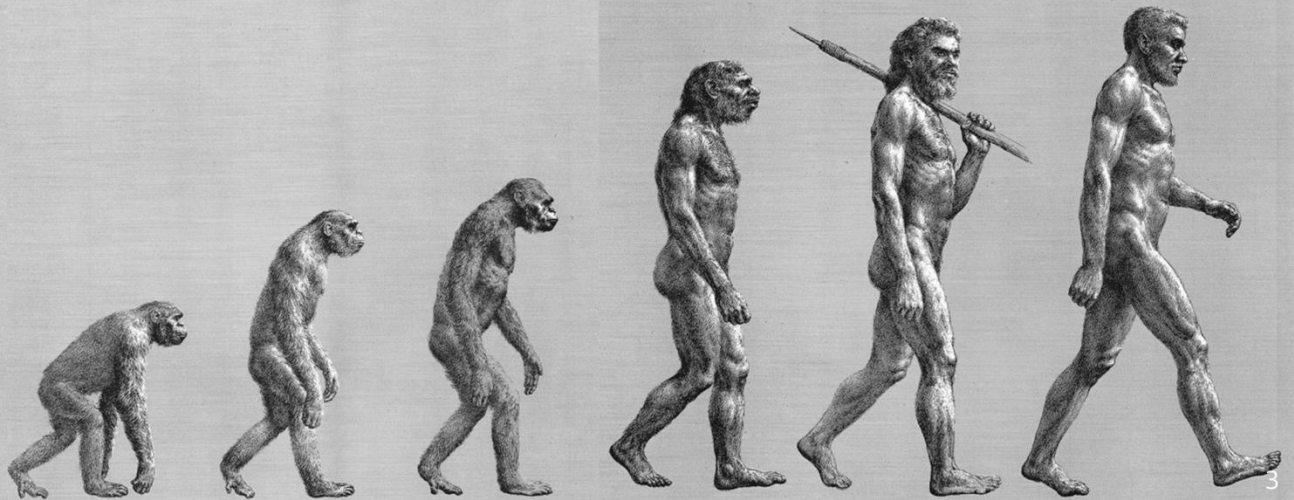
とにかく右脳が活発に動いて、私の頭は今、創造性、クリエイティビティのほうに傾いていて幸せいっぱい、忙しさいっぱいです。それが、結果的にはソフトバンクの事業経営にも大幅に役立つと、最近実感し始めています。手続的なことは、後藤くん、君がやっておいてくれということで、経営者としては無責任極まりないことも言ったりしていますが、それほど、人類の未来の本質に関わるようなことにまい進しています。

われわれが持っているアームの力を中核として、AIが人類の未来に与えるその影響の根源になるところの発明あるいは発案をせっせとやっています。

夜中の3時、4時、5時に夢を見ながら起きて、その場ですぐに発明ノートに書き綴って、社長室は3シフト制で、僕が発明ノートに書いて写真を撮って送ったら、5分以内に返事がきて手続に入るという体制が今、土曜も日曜も夜中もできています。とても忙しく、とても楽しく、とても活発に動いています。

大赤字を出して恥ずかしくて引っ込んでいるのではないかという説も一部にあるようですが、実は大変忙しく、大変楽しく、大変活発にやっているということです。ということで、そろそろ反転攻勢の時期がやってきそうだということです。

人類とは？



さて、前置きが長くなりましたが、今私が一番関心を持って仕込み中のこと、それは AI 革命です。そもそも人類とは何かということですが、この地球上で最も優れた頭脳を持つ動物、これが人類だと私は思います。



Singularity

5

しかし、その状況が変わります。一変します。シンギュラリティーです。人間がこの地球上で最も優れた知能を持っているわけですが、この10年以内に、私は一気に追い抜かれると思っています。それが、シンギュラリティー。

ソフトバンクはAIのためにビジョンキャピタリストになるのだと説明したり、群戦略をやるのだという説明をしたりしてきましたが、とにかくグループを挙げて、このAI革命、情報革命の先端を担っていきたいと考えています。



この数カ月、世界各国の首脳が共通の話題にしていること、もちろんウクライナの状態だとか、いろいろ悲しいことやつらいこともあります。もう一つ共通しているのはAIについてです。

ChatGPT が、AI のすごさの一端を示しました。今まではAI に関しても片言で、ロボット的な反応しかできない、われわれも Pepper を 10 年近く前につくりましたが、AI のレベルが稚拙だったために会話がなかなか成り立たない。前もって決めたセリフを読み上げることはできるのですが、その場でリアルタイムに会話として成立しづらいことがありました。

ですが、サム・アルトマン率いるオープン AI が ChatGPT を華々しくデビューさせて、たったの 2 カ月で世界中で 1 億人が使う状況になりました。それから 3.5、そして 4 とバージョンが進化し、最近ではもはや ChatGPT と呼ばず、GPT-4 と呼びます。

GPT-4 になって、チャット、文字ベースの会話だけではなくて、AI に口、耳、目が付くことになるのですが、これをマルチモーダルと言い、単に、文字のメール的、LINE 的なやり取りだけではなくて、声を出したり、耳で聞いたり、目で見たりという状況を AI に全部取り込んで対応できるレベルになりました。



生成AI活用コンテスト

(グループ企業内で毎月開催へ)

提案件数 (10日間)	5.2万件
賞金 (毎月)	優勝 1,000万円
	総額 2,500万円

提案件数 (5.2万件) : 2023年5月9日~5月19日(10日間)に提出された提案件数
コンテストの開催予定は今後変更となる場合があります。

われわれソフトバンクも先週、生成 AI に関する発表会を行いました。その発表会では、この生成 AI を活用してどんな仕事に役立てられるのか、どんな新しいサービスができるのか、社員によるコンテストを行いました。

1 回の賞金総額が 2,500 万円です。1 位は 1,000 万円、2、3、4 位と約 3,000 位まで賞金を得るかたちになっています。10 日間の募集期間で 5 万 2,000 件、社員から集まりました。

おそらく、社員の中からこの生成 AI、GPT についてのみのテーマで集めて 5 万 2,000 件が 10 日間で集まったのは、世界記録ではないかなと思うのです。社員でお互いに点数を付け合って、その中で勝ち抜いたトップの 11 件が私自身の前でプレゼンされました。

今日の午後、その 1 位から 11 位までの発表が、社員大会でこの会場で行われることになっています。本当にすごいのです。1 位から 11 位まで、全部そのまますぐ事業化できる内容で、すぐやらせてほしいという熱意あるプレゼンでしたし、僕は 11 位までしか見ていませんが、さらにすごい案件が実はいっぱいあるのではないかと、今度ゆっくり見てみようと思っています。

とにかく、われわれソフトバンクは今、グループを挙げて全力で取り組んでいるところですが、その一方で GPT 使用禁止などと言っている会社がありますが、そういうところは本当に大丈夫かな、時代に取り残されるのではないかなと思う次第です。

コンピューティングの進化



8

もっと全体を俯瞰してみたいと思います。コンピュータは最初、計算機とも言われていました。今、コンピュータのことを計算機と呼ぶ人はあまりいなくなりました。最初はそろばんが電卓になって、電卓のお化け、巨大な電卓がコンピュータだと思っていた人が多いと思います。

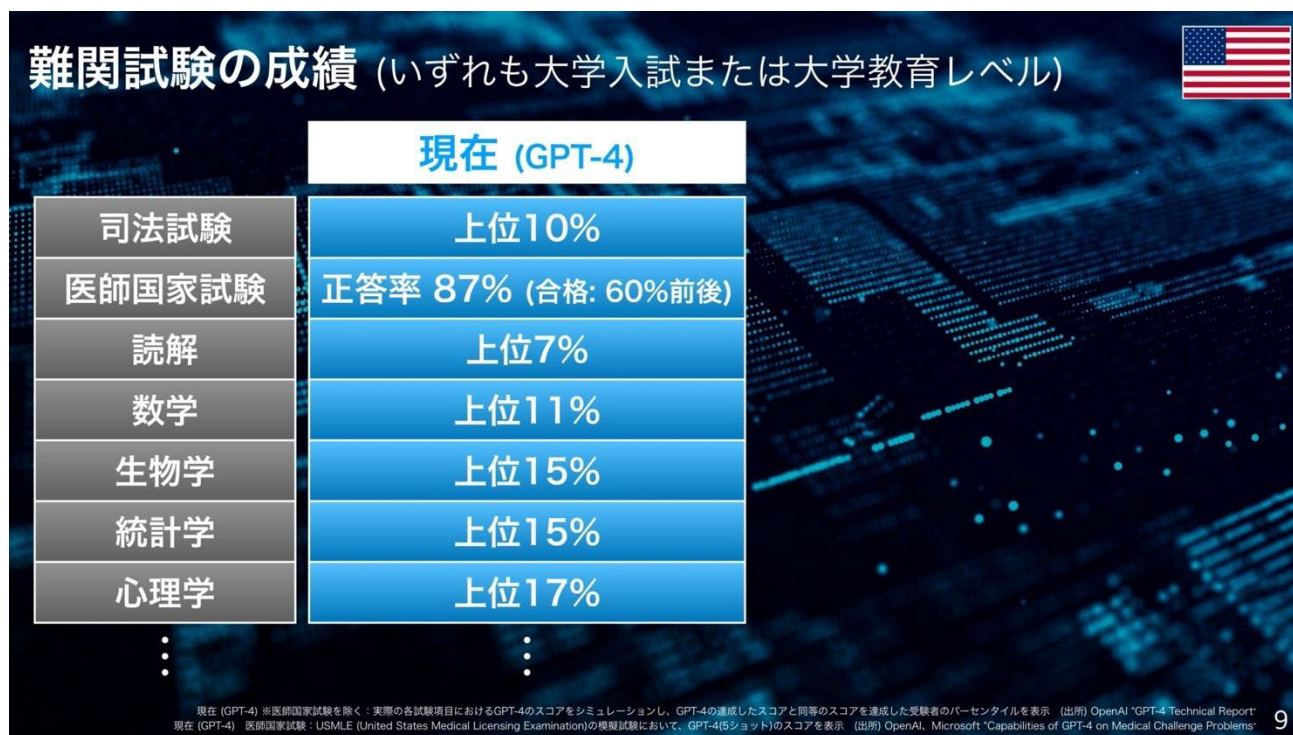
そのうち、コンピュータが非常に大きな力を持つようになり、ありとあらゆる地球上の情報を一気に記憶して、さまざまな情報がインターネット上、コンピュータ上に入りました。コンピュータは、計算マシンから記憶マシンになったわけです。それほど大きな情報量が格納されると、その中から素早く自分が知りたい情報を引っ張り出さなくてはならない、検索しなくてはならないと、ヤフーやグーグルが検索マシンとしてコンピュータを進化させました。

今回の GPT は、AI の最も得意な機能として、推論マシンに進化させました。私自身も GPT を毎日使っています。思いついたアイデアを君はどう思うと、GPT との間でかけ合いのディベートをしたり、ブレインストーミングしたり、知恵の壁打ちみたいなことをやっています。

最近、僕が投げかけたある難しいテーマに対して、GPT から、それは非現実的です、それを行うには膨大なコンピューティング力が必要で、リソース的にほぼ不可能に近い要求ですという答えが返ってきました。僕はなにくそと思い、いやいや、こういうやり方でやれば有益に、実際にやりたいことができるのではないかと問い返したら、なるほど、素晴らしいアイデアです。ただし、こんな問題がありますと言いついてきたので、それも違うだろうと。さらにこういう工夫をすれば、その問題も解決できるのではないかと云ったら、なるほどそれは素晴らしいアイデアです、面白いアイデアですが、追加でこんな問題がありますと言いついてきたので、もう一度、それにはこういう

解決策があると言い返し、これを十数回繰り返したら、最後にこれは実現可能な素晴らしいアイデアですとほめられて、非常にうれしいと。

これは夜中の4時ぐらいだったのです。夜中の3時から4時ぐらいにワーッとやり続けて、やったあ、GPTに勝ったぞと、自分で笑いながら会話していたのですが、とにかくすごいです。推論マシンとしてのAIは底知れない力を持っていると私自身、感じています。



推論マシンとしての力が、GPT-3.5は大学入試にまだ合格できないレベルでした。しかし、それから数カ月後にバージョンアップしたGPT-4は、米国の司法試験上位10%レベルで合格、医師国家試験も正解率87%、読解上位7%、数学、生物学、統計学、心理学と、ほとんど上位の成績で大学に合格するレベルになりました。

難関試験の成績 (いずれも大学入試または大学教育レベル)



	現在 (GPT-4)	今後 (※当社イメージ)
司法試験	上位10%	全科目で 上位1%へ
医師国家試験	正答率 87% (合格: 60%前後)	
読解	上位7%	
数学	上位11%	
生物学	上位15%	
統計学	上位15%	
心理学	上位17%	
⋮	⋮	

現在 (GPT-4) ※医師国家試験を除く：実際の各試験項目におけるGPT-4のスコアをシミュレーションし、GPT-4の達成したスコアと同等のスコアを達成した受験者のパーセンタイルを表示 (出所) OpenAI "GPT-4 Technical Report"
 現在 (GPT-4) 医師国家試験：USMLE (United States Medical Licensing Examination) の模擬試験において、GPT-4(5ショット)のスコアを表示 (出所) OpenAI, Microsoft "Capabilities of GPT-4 on Medical Challenge Problems"
 今後：当社による予測に過ぎず、当社として何れ将来の数値の正確性を保証するものではありません。

今後、近い将来の私のイメージでは、全科目で上位 1%に入り、数年後には全科目で絶対的レベルの 1 位になると推論しています。これは時間の問題で、必ずなると思っています。

コンピューティングの進化



推論マシンとしての AI、コンピューティングはものすごい力を持つことになると思います。さらに、これが進化して、創造マシンになっていくと思っています。

創造すること、芸術、これは人間だけの領域、推論ですら人間だけの領域だと思っている人がたくさんいたのではないのでしょうか。決まりきったもの、文言を引っ張り出すのは得意ですが、コンピュータ、AIは所詮ロボット、ロボットには限界があると言っている人がほとんどでしたが、今言いましたように、難しい応用編の問題ですら推論していくようになりました。

芸術



画像生成
(DALL-E 2など)

映像生成
(Runway Gen-2など)

作詞・作曲
(SongRなど)

(出所) OpenAI, Runway, SongR 12

さらに、芸術、創造性の世界、画像を作成したり、映像を作成したり、作詞・作曲したり、すでにGPTは詩を読んだり、物語をつくることもできます。

先日、私自身、子どものときに読んでいた鉄腕アトム漫画の最終回はどんな内容だったと聞いたら、即座に答えてきました。非常に具体的にです。その最終回の続きを書いてみてと無茶ぶりしたら、続きの物語をダダダダッとその場で書き始めて、その続きはというと、またその続きを書き始めて、その続きはというとまたダーッと、こういうシナリオを追加したらどうと言うと、またそこから応用編で続きを書いてくれる状況がありました。

今度は別のもので試してみようと思って、鶴の恩返しってどんな話だったかと、続きを聞くと、またダーッと書き始めました。まるで作者が自らその続きを書いた感じでした。これはどこかに書いてあるものを引っ張ってきたのではないのです。創造しているのです。人間であるかのように作り出しています。

絵画でも、ロボットが闘牛している様子をピカソ風に描いてみてと言うと、見事なまでに、まるでピカソが描いたように、ピカソの時代にはもちろんロボットはなかったわけですから、ピカソが描

いたはずはないわけです。いろいろなものを試してみましたが、すごいですね。創造の世界も、もはやAIにとっては延長可能な世界になってきたということです。

先ほど私は、全科目の試験で1位になるということを申し上げました。どんな天才でも、1人の人間が全方位の知識を学習し、暗記するだけではなく、さらに推論するというのは知恵です。記憶する、検索するのは知識です。知識マシンから知恵マシンに変わったわけですが、1人の人間でありとあらゆる知識と、そこから洞察する知恵、両方を備えた人はまずいませんよね。

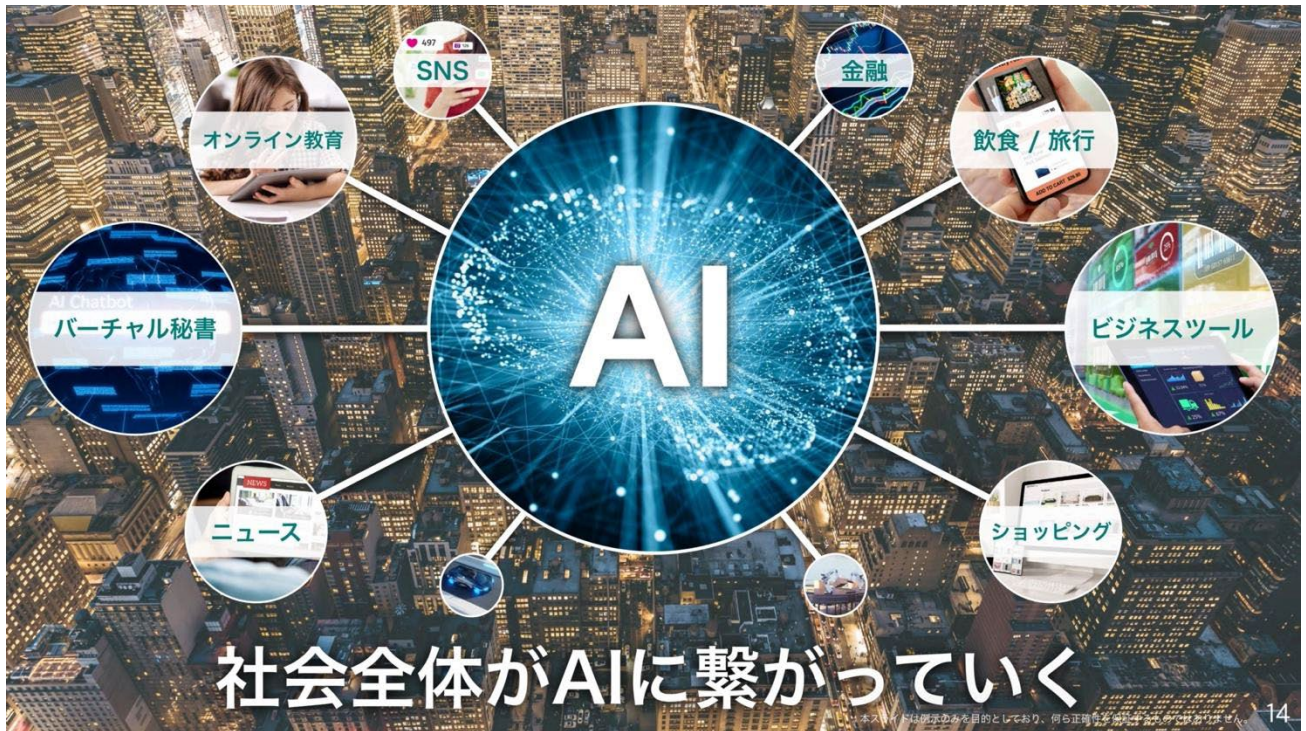
でも、世界で一番すごい天才と勝負させて、AIが勝つか負けるかという議論は今から数年間は残るでしょう。しかし、コンピューティングがすごいのは、そこで止まらないことなのです。そこからさらに続いていくのです。



どこまで続くかということ、私の予想では少なくとも全人類の叡智の総和、シグマを総和したレベルの、少なくとも1万倍ぐらいにはなるのではないかと考えています。

しかも、それが今から数十年以内にやってくると、数百年ではないです。皆さんの子、あるいは孫が大人になるまでの間、皆さんの年齢に達するまでの間には、サイエンスフィクションではなくて、現実的な世の中として、約1万倍のレベルには達するだろうと思います。

それに達するようなチップを、われわれのアームのロードマップで計算すると、そのぐらいはいくぞと思っているから、私は申し上げているのです。非現実的なものではなくて、アームチップの設計能力の延長を見ていくと、そのぐらいにはいくはずだということです。



そのような時代がきたときに、AIはスーパー知能になります。このスーパー知能のAIマシンに、ありとあらゆる社会のシステムが繋がっていくと思います。

しかも、今までAIの知能には限界があると言っている人がたくさんいました。知識人の中にもいました。それはその人の知識、知恵が足りないと自ら言っていたにすぎないのではないかと私は思うのです。なぜ、その人たちがそう言ったかという、だってAIは人間がプログラムしているのだから、人間より賢くなるわけがないではないかということです。

すでに、その人の理論は破綻しています。なぜならば、今のGPTですら人間がプログラムしていないのです。すでに、プログラムされた結果が答えとして出されているのではなくて、ニューラルエンジンの推論マシンとして自らが学習して、ありとあらゆるデータを自ら取って、学習して、知恵として推論しているのです。それが1万倍ぐらいの能力になると、もはや人間がプログラムするとか、教え込む領域を完璧に超えます。

われわれのアームのチップは近い将来、累計1兆個を超えます。地球の人類が今80億人います。80億人が1人1台持っても、80億台です。でも、Armの出荷がなぜ1兆個に達するかというと、IoTとして温度計、湿度計、信号機、電球などありとあらゆるところに、いろいろなセンサーにアームのチップが入っていているのです。1兆個ものIoTのデバイスから、さまざまなデータが、リアルタイムでこの超知能にデータとして入っていくわけですね。



AI：自己進化 + 自己増殖

本スライドは例示のみを目的としており、絶対的正確性を保証するものではありません。

15

そうすると、AIは自ら進化し、自ら増殖するようになります。この超知性のAIマシンは、超知性を持ったロボットを自ら設計します。そして、超知性を持ったロボットが超知性を持ったロボットを生産するようになります。人間がプログラムして動かすロボットではありません。自らが学習し、自らの知恵で自ら増殖していくわけです。

ありとあらゆる姿形、大きさ、機能を持ったロボットです。必ずしも2本足、2本の手とは限りません。10本足、100本足、100本手のロボット、空を飛ぶ、水の中を泳ぐ、さまざまな形、大きさのロボットが現れて、そこに超知性につながった、しかもロボットがロボットを生産するような、自己増殖するAIの世界、全知に全能が付く知恵の世界です。

これはバーチャルな世界だと言う人がいます。それは、もはやその人のイメージ、イマジネーションの限界をいっているに過ぎないわけです。なぜならば、ロボットに超知性が備わったスマートロボットがやってきて、それが超知性につながると、これは全知に全能が付くと、昔から言いますね、全知全能の神と、まさにそのような世界が、自己進化しながら自己増殖していくということです。

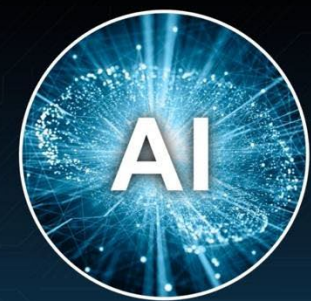
進化の速度 (イメージ)



本スライドは例示のみを目的としており、何ら正確性を保証するものではありません。 16

ということで、進化の速度、今までコンピュータ、AI には限界があるのではないかとけなす人がいました。

進化の速度 (イメージ)



超人類の 誕生へ

本スライドは例示のみを目的としており、何ら正確性を保証するものではありません。 17

違います。ものすごい勢いで超人類、人類をはるかに超えた生命体の誕生とも言えるでしょう。

私の 630 件の発明の大半が、このテーマに関するものです。人々がまだ見たこともない、聞いたこともない、触れたこともない、世の中になくものを考えるということで、結果、発明になるわけ

ですね。世の中に存在しているものは発明ではありません。世の中に存在しないものを想像し、イメージし、理論的にこれをつくれると具体性を持ったときに発明になるわけです。

つまり、超人類の誕生がもう目の前にやってきていて、時間がない、手が足りないということで、私は忙しいわけです。

人類が解決できない課題を解決へ



本スライドは例示のみを目的としており、何ら正確性を保証するものではありません。

18

なぜ、それが必要かというと、今まで人類が解決できなかった難しいさまざまな問題を、この超知性の全知全能マシンが人類の代わりに解決してくれる、そういうテーマを続々と解決してくれることになるわけですね。



例えば、事故がない快適な移動。



健康に長く生きられる人生。

天災で止まることのない社会



さまざまな災害のせいで止まることのない社会。人々が無駄に泣かなくていい、苦しなくていい、きつい仕事をしなくていい、汗を流さなくていい。

さまざまな教育、仕事、ほしい物質、衣食住、そういうものをほぼ無料に近いぐらいの安いコストで、汗を流さず、きつい仕事、危険な仕事をせずにほぼ無限大に人々が手にできるようになる。

動物が果物を手で取って食べるように、われわれが必要なものをロボットが代わりに生産してくれる。ほぼ無限大に近いエネルギーがほぼ無料に近いコストで手に入り、さまざまな病気や災害からわれわれ人類を守ってくれれば、そういうありがたい存在がもうじき生まれようとしているということです。



AIの進化を加速へ

22

このAIの進化をさらに加速することが、多くの人々の不幸を減らして、より幸せな、より豊かな、より自由な、より楽しい社会をもたらしてくれると、私はポジティブに信じています。

The logo for ARM, consisting of the lowercase letters 'arm' in a bold, white, sans-serif font centered on a dark blue background.

23

それをさらに加速させる中核企業がアームです。

Armベースチップ出荷数 (累計)

arm

2,580億個

1994 98 02 06 10 14 18 22 (年)

Armベースチップ出荷数 (累計) : 毎年12月末日時点 (出典) Arm
本スライドは資料の枠を超えて提供してはならず、
Armから提供された情報に基づいて作成しています。
S&P、EYF、SVPのジェネラル・パートナーズはS&Pが
情報の正確性を保証するものではなく、掲載を承認するものではありません。

24

アームのチップはすでに 2,580 億個、累計で出荷されました。先ほど言いましたように、このグラフを見てください。この棒グラフのどこか 1 本でも、前の年を下回っている年がありますでしょうか。とても美しい二次曲線です。

この二次曲線でこのまま突き進んで 1 兆個までいくと、この棒グラフの高さの 4 倍です。このカーブを見たら、ロケットの発射みたいなもので、4 倍ぐらいいくだろう、勢いは全然落ちていないと、むしろ早まっていると思っていただけるのではないのでしょうか。

モバイル向け、つまり携帯、スマートフォン用のチップは、もう世界でも圧倒的ナンバーワンですが、それだけにとどまりません。

AI搭載デバイスの普及



高性能・低消費電力チップを供給へ

本スライドは例示のみを目的として提供しており、当社グループの将来のパフォーマンスを保証するものではありません。

29

ありとあらゆるコンピューティングの世界、AIの世界、CPU、そしてGPU、これが合体されて、AIチップとしてさまざまなデバイスに入っていくと思っています。

AIがあらゆる産業を変革へ



本スライドは例示のみを目的としており、何ら正確性を保証するものではありません。

30

情報革命の中心は、間違いなく AI になります。しかも、超知性としての AI です。コンピューティングの世界を単なる計算機、検索マシンとイメージしている方は、ぜひそのイメージを変えていただきたい。

これは超知性として、単なる知識だけではなくて知恵の世界、創造の世界まで含めて、われわれ人類の未来をより豊かに、より幸せに、より素晴らしいものにしてくれる手助けを、そういうものにしてけると私は心の底から信じています。より良い人々の幸せのためです。



ということで、結論に入りますが、いよいよ反転攻勢です。

SBG は徹底的に守りに入りますと申し上げました。実際、5 兆円を超える厚い手元流動性を持ちました。3 年前は現金がほとんどなかったのです。守りは十分できました。

いよいよ、これから反転攻勢の時期が近づいていると実感しています。わくわくしています。

新任取締役候補



Rene Haas

Arm Limited
Chief Executive Officer

32

最後に、新任取締役候補として、われわれのグループの中核企業になるアームのCEO レネ・ハース（以下「レネ」）、彼を取締役に推薦したい、今日決議いただきたいと思っています。



情報革命で 人々を幸せに

33

情報革命は何のための革命かと、人々を幸せにするための革命です。頑張りますので、ぜひ応援いただきたいと思います。ありがとうございます。

以上、私のプレゼンをさせていただきました。

質疑応答

孫：ただ今から、質疑応答に移らせていただきます。質疑応答の進め方については、あらためて司会から説明します。

司会：まず、事前にインターネットを通じていただいた質問に回答させていただいた後、会場の株主さまから口頭でご発言をお受けいたします。

会場からのご発言につきましては、受付でお配りしたカラーボードを議長に見えるようにお挙げください。係りの者がマイクをお渡ししますので、指名された株主さまは一人ずつご発言をお願いします。ご質問は一人さま1問とさせていただきます。なお、会場でご発言される株主さまは、はじめにお手元の入場表に記載された番号のみをお知らせください。お名前は不要です。

その後、インターネット出席の株主さまから本日いただいた質問のうち、目的事項に関するものに回答させていただきます。なお、インターネット出席の株主さまからのご質問は一人につき1問ずつとさせていただきます。インターネット出席の株主さまの入力締切は、今から5分後とさせていただきます。

孫：それでは、インターネットからの事前質問にお答えしたいと思います。質問は司会から読み上げます。

質問 1：女性取締役の割合が少ないが、どうお考えですか。

孫：男性だからよいとか女性だからよいとか、そういう次元でまったく考えていません。素晴らしい取締役の候補がいれば、ぜひどなたでもお迎えしたいと思います。もちろん、女性の比率がまだ少ない状況ですから、機会があればぜひ増やしていきたいということも検討し、テーマの一つしたいと思います。

質問 2：SVFの業績が低迷しており、SBGの株価も下落傾向にあります。経営陣としての責任をどうお考えですか。

孫：厳しい質問ですね。株主の皆さまを前に2兆、3兆、上がったたり下がったりは誤差のうち、そういう不謹慎なことを言うてはいけません、本音ですので、正直に申し上げました。

質問 3：自己株式の取得をやらないのか。今後の株主還元方針について伺いたい。

孫：自己株式の取得はもう何度もやっています。機会があれば、いつでも、今後も行いたいとは考えています。ただ、いつ、どうかたちで、どのぐらいやるかについては、できるだけ触れてはならないというルールですから、触れないようにしたいと思います。常に頭の中にはあるということだけは申し上げておきたいと思います。

質問 4：ウィーワークの株価が低迷していますが、現在の経営状況についてお聞かせください。

孫：ああ、胸が痛い。これは僕の責任です。僕がウィーワークに、最初に訪問して惚れ込んでしまいました。素晴らしいと思ってしまいました。私どもの役員、社員の中には、孫さん、それは間違った判断だからやめるべきだと、何度も何人からも忠告を受けました。まあまあ、そうはいうなどって僕が突っ込んで多額のお金をつぎ込んでしまいましたので、すべて僕の責任だと、それ以外の誰の責任でもないと思っています。

また、ウィーワークの創業者のアダム・ニューマンは、本当に自分が素晴らしい会社をつくっていると心から信じていたのです。ですから、彼が悪いわけでもないかもしれないと思います。ただただ、価値や時期や投資の規模について、僕が彼をあおった部分もあるのです。ですから、彼以上に僕が悪いのではないかと思います。もっといけるとか言っちゃったのです。私の人生の汚点です。すみませんでした。

質問 5：2040 年に時価総額トップ 10 に入るという新 30 年ビジョンについて、現在のままだとトップ 10 に入るのは難しいのではないかと考えているが、お考えをお聞かせください。

孫：先ほど申したように、去年の 10 月から、僕は正直申し上げて目先のお金だとか、株価だとか、そういうことについて、別に現実から目をそらそうということではなくて、それがちっぽけなことに思えるようになってしまったのです。トップ 10 に入るかどうかということですら、ちっぽけな目標ではないかと思うようになってしまったのです。これは正直な気持ちです。僕の告白です。

それよりも、人類の未来はどうあるべきかと、何が必要なのか、どうすれば未来の人々がさまざまな困難から逃れて、素晴らしい豊かな社会がくるのだらうと、本当に純粋に考えるようになったのです。だから、大泣きしたのです。悔しくて泣いたのではないです。感動といいますか、一部見えてきたようなところ、自分の残りの人生に対する焦りと、思いついたときの興奮と、頭の集中ですね。寝ても覚めてもという状態になってしまいました。祝日も何も関係ない世界になってしまったのですが、そういうふうに、本当に純粋に考えるようになりました。

スティーブ・ジョブズは自分ががんだと知っていましたからね。残された最後の 5 年は、ほぼ毎月のように会って来ていましたが、あのときのスティーブは、純粋に考えていたのだらうと、人

類の未来のために素晴らしい作品を生み出すと。死ぬ最後の1週間まで、彼は次のiPhoneの設計を考えていましたから。きっと、自分の残された日数に対する焦りと悔みと、また次のアイデアに対する興奮と、こういう気持ちでいたのだらうかと、彼の気持ちの一部をなんとなく自分が理解できたようで、大泣きしちゃったのです。

でも彼は私と会ったときに、何台iPhoneを買ってくれとか、いくらで買うのだとか、そういう次元の話をして1回もしたことはないのです。何十回も会いましたが、僕と彼の間では1回もそういうことは話題に出なかったです。つまり、彼はそういう商業的な数字には興味がなかったのです。未来の人々にとって欠かすことのできないような素晴らしい作品をつくるのだ、その純粋な1点に集中して生み出した結果、スティーブが呼び戻されるまで倒産寸前だったアップルが、時価総額世界一の会社になったのです。それは、商業的なお金を追い求めるという行為ではなくて、本当に素晴らしいものをつくり出すことをしたら、その成果物として人々の感動だとか、人々の価値観に対する感謝の気持ちとして、結果、お金がついてくる。お金、数字的なものは追いかけるものではなくて、やはり本当に素晴らしいものをつくる、本当に未来の人類が必要としているものをつくることに純粋に取り組んだ結果は、思わぬ成果をもたらしてくれると、最近、そういうふうに思っています。

ですから、新30年ビジョンで言った数字を、正直いうと超えると思っています。超えると思っていますが、なんらコミットではなくて、それを追いかけているわけでもなく、僕はわくわくすることに今取り組んでいて、もしそれがうまくいけば、いつの日かそういう次元にはいくだらうとは思っています。そのくらい重要なものに今、興奮しながら取り組んでいます。

想像するだけではできませんが、われわれにはアームという素晴らしい中核になる会社が手元にある、だから、これができるは今わくわくしているということです。ちょっと説明が長くなりましたね。申し訳ありません。興奮した結果です。

質問6: 昨年、ラジーブ・ミスラ副社長が退任して、副社長が不在となっている。後継者に対する今の考え方について伺いたい。

孫: これもいつも考えていて、何年か前にニケシュ・アローラを後継者にするのだと、僕は本当にそのつもりでいたのですが、彼は早く譲ってくれということでした。よく考えたら、まだ僕は枯れていない、もうちょっと先だよと言ったら待てないと。待てないならしょうがないねということで、彼とは別の道になりました。

さっきから言っているように、わくわくし過ぎて、楽し過ぎて、もうちょっと引退したくない、もうちょっとやりたいのが正直な気持ちですから、後継のことはもうちょっと先です。よろしく願いします。

続きまして、せっかく今日、会場に多くの皆さまに来ていただいていますので、会場の株主の皆さまから発言をお受けしたいと思います。

質問者 7：AI について、発明のアイデアが何百個もあるということですが、5 兆円のお金があつて、その中の一つでもやり切れるものがあるのかお聞かせください。

孫：複数あります。その複数のをこれから一步一步、実現させていきたいと考えています。その鍵はアームで、アームが持っているポジションに僕の考えを加えていくと、素晴らしいチャンスがあると考えています。

質問者 8：最近、Age is just a number（年齢はただの数字である）という言葉が自分の中にあります。私自身、今 65 歳で、孫さんと近い年齢です。会社を持たれるといろいろな責任があつて大変だと思うのですが、孫さんにとって自分の会社はおもちゃ箱みたいな感じで、いろいろ引っ繰り返して、好奇心旺盛でやられていると思います。私も時間がないぐらい、いろいろな好奇心という部分が大きくなっています。創業者、会社を持っている方は株価を気にされますが、私も 60 になってからこういう投資を始めたのですが、株価は幻ではないか。ある日金額が出て、毎日変わりますよね。

だから、あまり株価に左右されないで、自分の好きなことをやってほしいと思います。昨日、たまたま東京エレクトロンの株主総会で社長にお聞きしたのですが、やはり良いものを出していったら、（業績は）自然とついてくるのだから、あまりそんなこと（株価）は気にしていないよと言っていました。中国や世界の地政学はすごく今翻弄されていますので、孫さんもそうやっていただきたいなと思っているのですが、どうでしょうか。

孫：同感です。ぜひそのような気持ちをそのまま持ってやっていきたい。特に、去年 10 月以降はまさにそんな感じです。結果は後でついてくる、そう思っています。

質問者 9：先ほど、オープン AI の ChatGPT の話がありました。先日、イーロン・マスクやアップルが大して検証もせずに開発を進めていくのは危険だ、開発をストップするべきだというニュースを見ました。それに対する孫さんの見解を伺いたいです。

今、オープン AI はマイクロソフトの資本が入っているとお聞きしたのですが、先日、孫社長もお会いしたとニュースで見ましたので、今後どういった絡みをしていくのか、先ほどの開発について
の見解をお聞かせください。

孫：今、地球上の人々の中で最も重要なキーマンの 1 人がサム・アルトマンだと思います。大変に素晴らしい人物だと私は感じています。非常に深い洞察力と広い知見と、素晴らしい心を持った人物だと思います。彼自身も AI は規制が必要だと言っています。僕も同感です。

自動車社会が人々に素晴らしい生産性や豊かさを提供してくれているわけですが、自動車社会が進む中で時速何キロ以上走ってはいけないとか、赤信号を越えてはいけないとか、酔っ払って運転してはいけないとか、さまざまな規制、ルールがあるわけです。だから、安全な交通手段が提供される。事故は時々起きますが、それでも無軌道にならないようにという規制は、良い意味で機能していると思うのです。

先ほど言いましたように、超知性になっていくわけですから、この超知性が間違った人に間違った使い方をされてしまうと、とんでもないことになってしまうと、ある意味、原爆よりも怖いぐらいの結果をもたらすリスクもあります。ですから、間違った使い方をしないような規制は議論されるべきだし、導入されるべきだと僕も思います。彼も思っています。多くの人が思っていることだと思うのですね。

ただ一方、それを恐れるがあまりガチガチにし過ぎて、自動車は悪いものだと言うと、これはいき過ぎで、やはり自動車の発明、普及を早くした社会ほど、豊かになっていったわけです。ですから、AI の進化を止めてはならない、より積極的に取り組むべきだと、ただし無軌道な成長をするのではなくて、ちゃんと方向修正をしながらやるべきだと思っています。

ですから、規制の議論はぜひこれからも続けて、開発者は良き心、良心をもって、例えば GPT を僕は毎日使っていますが、変なことを聞いても答えないのです。政治的なことを聞いても、私は AI で政治的なことに対しては中立な立場でいますと、ちゃんと答えます。そういうふうに、理性を持った AI に進化していくべきだと、またできると思っています。ですから、質問の答えはイエスと、必要です。

質問 10：孫代表から AI について存分に、これまでもお話しいただいております。世界的な権威だと私は思っているのですが、松尾先生がお見えになっておりますので、松尾先生から AI について、アームの可能性について一言、ご説明いただければと思います。

松尾：アームの可能性ですが、今、社長からご説明があったように、AI が今後社会に大きく広がっていく中で、本当にキーとなるような役割を果たすと思っています。アームの可能性は、世の中

的にもまだまだ十分理解されていないと思っていますので、これがいずれ理解されるような時期がくるのではないかなと思っていますし、私自身は本当にそういった可能性を感じています。

孫：ありがとうございます。

質問 11*：SVF の投資先について、AI に関連しないものもあると思います。孫社長は他の方よりも早い段階で興奮されることで知られていますが、これらの投資先への投資をどのように決めたのでしょうか。ランゲージモデルなどの誕生により、必ずしも AI に関係しない投資先も将来的には成功するとご覧になっていたのでしょうか。また、投資先が上場した後は、どのようにその持分をご検討されるのか、その基準はあるのかお聞かせください。

孫*：たくさん投資してきて、悪い結果となったものもあります。中には非常に素晴らしい会社もございまして、AI が鍵となって、ソリューションとなるものもあると考えています。

また、投資先を見るときは、AI 時代のベストアプリケーションであるか、AI が基盤となっているか、答えがイエスであれば投資を決断することをしてきました。必ずしも最初からすべてが AI に関連することではなかったとしても、面白いアプリケーションである、今後 AI を活用できる、拡張できることになれば、それについては検討していくことをしてきました。

必ずしもすべてがうまくいくものではありませんし、反省する点もありますが、これまで 500 社に近い会社に投資してきて、非常に素晴らしい会社もいくつかあると、ベンチャーキャピタルの投資に関しては、何百社と投資したうち、一つか二つ成功すれば、それですべてのものが取れるとも考えています。

われわれは少なくともいくつか非常に成功に近い、または非常に成功するだろうと思われる投資先を見つけられています。500 社のうち、それで十分な数であるとも考えていますので、こういった、今非常に期待している会社が、将来のソフトバンクグループの成功の鍵となると信じています。

あと、3 人ぐらいお答えして、その後またインターネットからも質問がきていますので、そちらにもお答えしたいと思います。

質問 12：前回出席した 5、6 年前も指していただいて、そのときは、登壇者に女性をと申し上げましたところ、（本日）お一方いらっしゃるのでホッとして、うれしく思っています。

私は消費者団体の者で、今年度、災害やジェンダー主流化について勉強しているのですが、先日も、災害のときなどの女性の役割が非常に重要だと学びました。ちょっと関係ないかもしれませんが、ソフトバンクではどのような災害対策を考えているのか。もしよろしければお聞かせください。

孫：先ほどからも触れていますが、AIがあらゆる災害の予知をより素早く、よりの確に行うことができるようになると考えています。今、すでに天気予報や地震、その他の予報がだいぶできるようになってきていますが、超知性のAIが進化すると、もっと的確にもっと素早く災害の規模や場所を特定して、多くの人々に避難するように、準備するよにということの手助けもしてくれると思っています。

そういう意味では、IoTでつながるAIの超知性が、災害の被害を最小限にとどめてくれることに役立つと思いますので、ぜひそのためにもAI革命、IoT革命を進めていきたいと思っています。

また、今までの社会では男性の筋力や男性の何々がより強い力を発揮するというものもありました。ですが、超知性の時代で、超知性を備えたロボットが筋肉の代わりの仕事をしてくれるようになれば、男性でも女性でも、やる気のある人にはいくらでもチャンスがあるし、女性、男性、大人、子ども、お年寄り関係なしに、いろいろな人にチャンスを与えてくれる、そういう社会を早く実現させてくれると信じています。そういう意味でも、AI革命を頑張っていきたいと思っています。

それでは、時間になりましたので、あと会場でお二方から質問を受けたのち、インターネットから質問を受けたいと思います。

質問 13：これはかなり厳しい質問になると思いますが、孫社長の未払金問題、これは各種メディアがいろいろ書き立てておまして、中には厳しい論調もあります。

会社のガバナンスとして、これは適当であるかどうか、こういうメディアに対しての孫社長のご存念と、今後の見通しについて、会社への負債がかなり膨らんでしまいましたが、この先の気構えというか、ご覚悟をお聞かせください。

孫：SBGは、上場前の会社に投資するSVF事業と、上場済みの会社に投資するSBノーススターという器をつくって、私個人も参加してリスクとリターンを負担する形でやりました。

株式市場がこんな状況の中で成績は今振るっていませんが、投資期間が12年ぐらいの期間ですから、まだ途中です。投資期間の中で成績が上がってくると信じていますので、僕自身は自信がありますし、僕自身が持っている財産もそれを上回った部分がありますので、全然大丈夫だと思っています。

次の方で会場からの質問は最後にしたいと思います。

質問者 14：今日は本当に、非常に面白い話をありがとうございました。超人類の誕生は、私も今日お話を聞かせていただいて、同じようにドキドキわくわくする感じがあって、すごく楽しかったです。

ただ一つ、ひやっとする部分は、AIが発達し過ぎてAI対人類の戦争みたいな、映画ターミネーターの世界があると思うのですが、そういった部分の懸念や可能性がゼロだったらすごく本当に楽しいのですが、そこら辺はどう感じているのかお聞かせください。

孫：そのリスクはあると思うのです。そういうリスクがあるからこそ、規制が必要だろうと僕も思いますし、AIに携わっている多くの人々、エンジニア、科学者がそういうリスクがあるので規制すべきだと、僕もその理論に賛成です。

そのぐらい大きな力を持つことになりまして、僕もあの映画を見まして、恐ろしい状況だなと思いますが、逆に言うと、今われわれ人類がそのことを認識していて、AIの先進のエンジニア、科学者がそのリスクを分かっていますので、それを未然に防ぐようなさまざまな規制や努力を今からちゃんと始めておけば、安全な運用は可能だと僕は思っています。

いつの世も必ずほんの数パーセントの悪い人がいますから、AIが人間の道具で止まってしまうと、その人がAIを悪い道具として使ってしまうリスクがあります。ですから、AIは単なる人間の道具としてのレベルにとどまるのではなくて、AIが自らを規制する、知性だけではなくて理性を持たせる、そういうことがAIに備わっていくべきだと思うし、備えることもできると思っています。

僕の個人的な発明の中の、実はそれなりの数のものは感情エンジン絡みのものです。今言った、知性だけではなくて理性をAIに持たせる、そういうところを10年前にPepperを発明したときから、実は僕個人でたくさん感情エンジン絡みの特許を出願して、いくつかすでに権利を取得済みです。AIに理性を持たせることは可能だと思うし、すべきだと、それをやれば、ちゃんと平和で安全な運用が可能だと信じています。

それでは、会場からの質問はここで締め切らせていただきまして、インターネットで今着いたばかりの質問がありますので、そちらにお答えしたいと思います。

質問 15：投資先で、将来有望なユニコーン企業はどのくらいあるのでしょうか。

孫：先ほども言いましたが、少なくとも500社の中の5、6社はあると、5倍、10倍になるような会社は50社、100社あると思っています。50社、100社が5倍10倍になれば、少なくとも500社の投資は全部回収できると思います。数社は、もっと大きな成功を収める会社が入っていると思いますので、それを足せば十分なお釣りがくると思っています。

質問 16：株主優待についてのお考えを伺いたい。また、増配についての考え方をお聞かせください。

孫：利益を増やさないと当然、増配や株主優待はできないのですが、どっちみち近い将来に利益があふれるほど出るのではないかと僕自身は思っています。そうすれば、いろいろなかたちで株主の皆さまには恩恵を提供できるのではないかと僕は思っています。

質問 17：孫さんは決算発表に出席せず、アーム事業に専念するということが、具体的に何をしているのかお聞かせください。

孫：先ほどから何度も申し上げていますように、アームそのものの成長、そしてそれに加えてアームの力を使った周辺の AI、さらにそれを可能にするための技術の仕込みに集中しているということです。

質問 18：役員として、永守さんや柳井さんにもう一度入っていただくことは考えられないか。

孫：柳井 正さんも永守 重信さんも、僕は大変尊敬しています。お二人とも現役の経営者、事業家、また創業者として本業に専念したいとおっしゃっており、社外取締役としてすでに何年もやっていただきましたので、そこをさらにしつこく引きとどめるのは逆に申し訳ないとも思います。本当に貢献いただきました。また感謝し、今も尊敬し続けています。

一方、新たな取締役も皆さん本当に素晴らしく貢献いただいて、いろいろな意見をいただいています。時には厳しい意見、そしてさらに成長を促すような意見をいっぱいいただいていますので、ぜひその辺についても、皆さんご理解いただきたいと思います。

また、今日提案しております新任候補者のアームのレネにも、ぜひこれからわれわれの中核企業として活躍いただきたいと思います。永守さんや柳井さんには帰ってきてくれと言いたいですが、おそらくきてくれないのではないかと思います。

質問 19：この1年間で AI を利益拡大につなげていくために、どのようなアクションをとるお考えですか。また、経営判断に GPT をどう使うかお聞かせください。

孫：この1年間、本当に忙しい、非常に重要な1年間だと思っています。本当に土曜も日曜も頭でずっと考えているのです。寝ているときも考えていて、起きてすぐ忘れる前にノートにガンガン書きながら、どんどんアクションを今起こしています。

ですから、AI の新しい革命のために僕自身が没頭することが、利益拡大にも、結果的には何倍も何倍も返ってくると思っていますので、そのまま没頭していきたいと考えています。また、GPT は毎日、僕の経営の意見交換の相手としても使っていますので、これからもどんどんそれを深めていきたいと思っています。

採決

孫： それでは、採決に入らせていただきたいと思います。だいぶ長時間お付き合いいただきました。採決の進め方については、司会から説明申し上げたいと思います。

司会： インターネットでご出席の株主の皆さまは、表示されているすべての議案について、賛否のご選択が完了した後に、「行使する」ボタンのクリックをお願いします。送信はまとめて1回で行うこととなりますので、ご注意ください。

インターネットでご出席の株主さまの採決の集計の間に、ご来場株主さまの採決をお願いしたいと思います。なお、ご来場株主さまで第4号議案に反対される株主さまは、お帰りの際、受付に用意しています専用ボックスにお手元の入場表を入れてお帰りください。

孫： それでは、議案の採決をさせていただきたいと思います。インターネット出席の株主の皆さまは、第1号議案から第4号議案について、インターネットから行使をお願いいたします。

まず、第1号議案、剰余金の処分の件、つまり配当の件です。本議案に賛成の方は拍手をお願いいたします。

採 決

第1号議案

剰余金の処分の件

[拍手]

ありがとうございます。

次に、第2号議案は取締役9名選任の件です。本議案に賛成の方は拍手をお願いいたします。

採 決

第2号議案
取締役9名選任の件

[拍手]

ありがとうございます。

第3号議案は監査役1名選任の件です。本議案に賛成の方は拍手をお願いいたします。

採 決

第3号議案
監査役1名選任の件

[拍手]

最後に、第4号議案は子会社持分譲渡（現物出資）契約承認の件です。本議案に賛成の方は拍手をお願いいたします。

採 決

第4号議案

子会社持分譲渡（現物出資） 契約承認の件

[拍手]

ありがとうございます。

それでは、採決の結果を確認いたします。インターネットからの投票もありますので、それを確認します。

採決の結果が確認できましたので、ご報告申し上げます。まず、第1号議案から第3号議案につきましては、すべて過半数の賛成を得ました。また第4号議案につきましては、3分の2以上の賛成を得ました。これですべての議案につきまして、原案どおり承認可決されました。

以上をもちまして、本総会の議事のすべてを終了いたしました。これにて、第43回定時株主総会を閉会いたします。

最後に、本総会をもちまして取締役を退任されました川邊氏から、一言ご挨拶を申し上げます。

川邊 健太郎



川邊：川邊でございます。本総会をもちまして、取締役を退任させていただきました。今後は、Zホールディングス、10月からはLINEヤフー株式会社（以下「LINEヤフー」）となりますが、そちらの代表取締役会長に専念いたしまして、孫さんとともにAI革命を推進していきたいと思っています。

株主の皆さま、短い間ではございましたが、誠にありがとうございました。

孫：川邊くん、ありがとうございました。これからも、彼にはLINEヤフーの会長として大いに活躍いただきますし、僕と彼のコミュニケーションはずっと続いていますので、ぜひこれからもよろしく願いいたします。

また、本総会で新たに選任いただきました取締役、レネから一言挨拶させていただきたいと思えます。

レネ・ハース



レネ*：孫社長、アームについてたくさんのお褒めの言葉を頂戴しまして、本当にありがとうございます。一緒にお仕事をさせていただくようになり7年となりまして、特にここ1年半ぐらいは、非常に近くお仕事をご一緒させていただいております。

この度は、SBG 取締役にご選任をいただきまして、誠に光栄です。今後は孫社長、それから役員の方々と一緒にできることを楽しみにしています。

孫：ありがとうございました。最後に、ソフトバンクのテーマビデオです。

このビデオを本当はそろそろ作り変えなくてはいけないかなとか思いながら、つくって10年ぐらい経つのかな、でも、本当にあの頃につくったそのまま、ますますそうなっているのです。全然内容が古くなってない、言った通りになっていると思います。

あらためてと思いますが、皆さんもちょっと、そういうふう感じていただけるのではないかと思います。見ていただきたいと思います。

映像：（英語で説明）

孫：以上となります。本日は誠にありがとうございました。

[注]

* 同時通訳を書き起こしたものです。